

# 日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会  
創刊号  
1987年10月15日

## 豊かな創造性を求め、 新たな息吹きを

亀山美知子

去る八月二十六日、日本看護歴史学会の第一回大会が、京都市立看護短期大学で開催されました。

当日は早朝より、東北、九州など遠路も厭わず上洛された方々をはじめ、全国から会員の皆様の御参加を頂いたほか、新聞や雑誌の広告などで会の開催を知って駆けつけて下さった方もあり、総勢約八十名の熱気が会場に溢れました。会の進行は、新鮮な息吹きを感じさせる中にも和気朗々とした雰囲気にも包まれてとり行われました。当日のアンケートの結果は別の機会に詳しく御紹介いたしますが、多くの方々に御満足頂けたようです。まったく手さぐりの状態で会を準備した幹事一同としては、これ

に勝る喜びはございません。ここにあらためて参加者の皆様に御礼を申し上げる次第です。

すでに申し上げましたように、日本看護歴史学会は、広く看護に関する歴史(文化史を含む)を考究することを目的としております。それは、看護学自体が学際的学問分野であることと同様、無限の可能性を秘めたものであると信じております。会員の皆様方の関心分野を拝見しましても、非常に多岐にわたっていることが、そのことを如実に示していると申せましょう。しかしながら、従来、このように幅広い領域への高い関心を満たすための準備は、十分なされてい

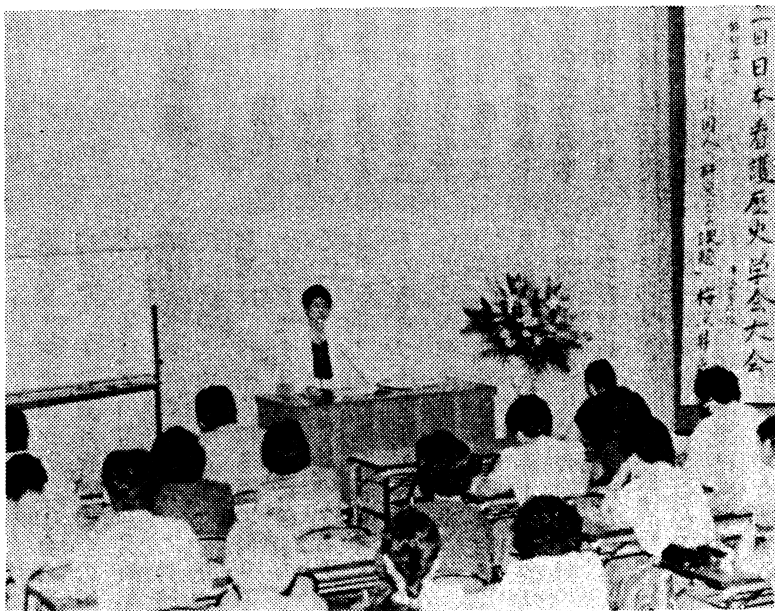
たとは言いがたいものでした。学問

序ありとは申しませんが、会員各位が、時には師となり弟子となり合って交流を深めながら、多くのことを学んでいけるような会にしたいと存じます。幸い、看護史に関しては既にいくつかの会があります。これらの方々とともに論議を深めることによつて止揚できれば、看護学一般にとつても大変意義深いことであると思えます。そのためにも、基礎を十分ふまえて豊かな創造性を培っていただける会になるよう、皆様方の御努力と情熱に期待いたします。

ところで、総会  
の場で発表いたしました  
ましたが、本会では  
は来る一九八八年  
を近代看護婦発祥  
百年と定め、記念  
行事を予定して  
おります。この具  
体的な内容等につ  
きましては、現在、  
鋭意検討し準備を  
はじめております  
が、二十一世紀へ  
向けて、看護婦に  
対する社会的要請  
が高まっているこ

とをかんがみ、国民的行事となるものを実施したいと考えております。しかしながら、何分にも身の丈にあまる計画ですから、皆様方の深い御理解と御援助を賜りたくお願いいたします。

日本看護歴史学会という新たな会の誕生に、皆様と共に立ち合えたことを何よりも有難く存じます。この息吹きを忘れることなく、会の成長を共に育てて参りたいものです。



大会会場風景

第一回

日本看護歴史学会総会

プログラム

1. 本会設立の趣旨説明(山本)
  2. 総会までの経過説明(山崎)
  3. 会則案の提示(亀山)
  4. 会計報告(福本)
  5. 会計監査報告(五十嵐、依田)
  6. 予算案の提示(福本)
  7. 活動案の説明(亀山)
- ①幹事制導入について  
役割分担(代表、総務、企画、編集、広報)  
\*総務は(事務局、会計、分科会担当)によって構成される。
- ②機関誌及び名簿の作成について
  - ③分科会活動について
  - ④来年度の催しについて
- \*近代的看護婦発祥一〇〇年記念行事
- ⑤その他
  8. 幹事承認及び紹介
  9. 分科会活動について(高橋)
- ①七月末日現在の会員カードによる分科会の概要について  
②今後の運営について

第一期 幹事紹介

代表幹事 亀山美知子

(京都市立看護短大)  
山本 捷子(日赤大)

総務担当

山崎 雅代

事務局

(兵庫女子短大)

会計

福本 恵  
(京都府保健婦専門学校)

分科会

高橋みや子(千葉大)

企画

藤村 龍子(東海大)

編集

高田 節子(岡山大)

広報

氏家 幸子(阪大)  
ライダー 島崎 玲子  
(北里大)

◇関連行事

特別講演

「お雇い外国人の研究とその課題」  
仏教大学教授・阪大名誉教授

梅溪 昇氏

研究報告

「日本における看護婦養成の開始とミッションのかかわりについて」

会員 亀山美知子

日本看護歴史学会

設立までの経過

山崎 雅代

私共は、かねてより初心者から専門的な研究者まで幅広い同好者を対象とした看護歴史の会を設立し、学際的な研究の可能性を追求したいと考えていました。同じような考えをもつ発起人、賛成員十名によって、具体的に会設立の準備をはじめたのは、昭和六十一年の春ごろでした。その後は主として書簡による連絡を重ね、会の性格、名称等の検討を行いました。

会の名称については、すでに看護史研究会があることから、混乱を避けるため、日本看護歴史学会を仮称することになりました。

昭和六十一年十二月に仮事務局を設置し、医療関係各雑誌に、「日本看護歴史学会設立と入会のお誘い」の掲載依頼を行いました。二月より各誌に広告ができました。一月二十八日はじめての入会者があり、その後ぞくぞくと入会の希望、問い合わせがありました。

昭和六十二年三月二十九日、初

の設立準備委員会が、京都市立看護短期大学で開かれ、①会の名称の確認、②設立趣旨、③会の運営方針、④活動内容、⑤会員資格、などが検討されました。この時点で、会の名称に「日本」を冠する意図は、将来的に各国の同種の会との交流を目指すためのものであること、「学会」という名称を使用するが、いわゆる学術団体としての権威づけを考えるものではないことが確認されました。

第二回の設立準備委員会は、五月十六日に、日本赤十字看護大学において開かれ、会則の検討、および設立総会の具体的な内容、分科会の準備などが検討されました。

第一回大会ということで、会期は一日とし、看護史にも関係のある「お雇い外国人」に関する特別講演を梅溪昇先生にお願いし、開催地は京都と決定しました。また、この時点で約八十名の会員の入会がありました。全国に会員が分散していることを考慮し、なるべく多くの会員が参加できるように、総会開催地を関東、関西で交互に置くことなども了解されました。

八月二十六日、設立総会が開催され、すでに一〇一名の入会者がありました。当日二十四名の入会者があり、会員総数一三五名を

擁する規模となりました。その後も入会者が相次いでおりますが、さらなる発展を目指したく、皆様の御協力をお願いする次第です。

### 分科会報告

高橋みや子

会員の関心分野は、八月二十三日現在の会員カードによると、以下のように二十二分野と広範囲で多岐にわたっている。(回収カード八十三名分、九十五件の分類による)

文学、映像にみる看護、生活文化と看護、女性史、宗教と看護、看護思想史、近代看護史、ナイチンゲール、日本赤十字社の看護、現代看護史、看護制度史、GHQと看護、各国史、地方史、個人史、公衆衛生看護史、助産・助産婦の歴史、小児看護史、精神科看護史、看護教育史、教育方法史、看護士の歴史、社会と看護。

大会当日は、分科会参加者全員が主体的かつ自主的に各自の関心分野に分かれ、以下のように十四の分科会を持った。

文学と看護(高田節子氏他七名)  
生活文化と看護(門脇ツヤ子氏他四名)



分科会参加者の熱心な討議風景

女性史(中込仁氏他二名)  
看護思想史(瀬戸文代氏他一名)  
近代看護史(石沢信人氏他六名)  
ナイチンゲール(三村公子氏他三名)  
日本赤十字社の看護(吉川龍子氏他二名)  
現代看護史(山崎雅代氏他三名)

GHQと看護(ライダー島崎玲子氏他五名)  
各国史(鈴木美恵子氏他一名)  
助産・助産婦の歴史(岡崎寿美子氏他一名)  
小児看護史(江崎フサ子氏他一名)  
看護教育史(藤村龍子氏他三名)

社会と看護(横山嘉子氏他四名)  
各々の分科会では、各自の関心分野の紹介や文献、資料等について情報交換を行い、さらに今後の分科会活動の検討をするなど会員相互の活発な交流がなされた。最後に、分科会活動の継続と再会を約束して散会した。  
今後、関心分野毎、地区毎に分科会を発足させ、会員相互の交流や情報交換をはかることが必要である。については、既存の分科会の活動報告や新規の分科会発足のニュースを、機関誌に掲載する予定につき、連絡をよろしく願います。

### メチカルフレント社の最新刊

#### ●老人と語る看護

長野 勝著……………A5判/定価二、八〇〇円

老人看護の現場から心打たれるエピソード50話を集めた「老人看護物語」と、老化に伴う疾患の解説・治療・看護の整理。日常生活への主な援助と在宅看護における悩みに応える。

#### ●在宅老人への訪問看護

新津ふみ子著……………A5判/定価二、五〇〇円

在宅老人へのケアを中心に、訪問看護実践のすべてを明らかにし、今後の課題を展望。訪問看護婦養成のために、実践の中で蓄積された知見を体系的にまとめた書。

東京都千代田区九段北三丁目二番四号  
〒一〇二 〇〇三(二六四) 六六一一

# 第一回大会に 参加して

都築 公

第一回日本看護歴史学会総会が開催されたことは、日本の看護の歩みの中で重要な意義をもち、また私個人にとっても意義深い一つの節目であったことを思いおこしています。

看護のいろいろの分野に関りをもって過ごす中で、今一度人間の存在と看護への関りをじっくりと見極めたいと願って久しく、時間だけがあわただしく過ぎていきました時に、亀山美知子氏の近代看護史の研究が誌上发表され、更に単行本とされまして、沢山の史実を丹念にお示しいただき、一層自分の課題への努力を問われておりました。

このような時に、日本看護歴史学会の設立を伺い、よい機会を得ました。

手造りの人間の歴史に、熱い血が流れるような学会であり、沢山の視点から看護の流れを究める会として、じっくりと肩肘はらない学びが実りそうな期待をもっています。

研究報告の中では、看護教育が

発展するためには、女性と教育、女性と職業を支えさせられ、身近な人々は理解を得ることがいつの時代にも困難の伴うことを、今更に感深く拝聴しました。  
設立準備のために、おしみなく労を重ねて下さいました方々に感謝申し上げますとともに、学会が充実したものに成長発展することをお祈りします。



ライダー氏の乾杯で

# 懇親会に 出席して

青木うめ子

私の歴史コンプレックスはいつ頃からだったろう……。それなのに、看護歴史学会員になって学び始めようとしている。私は準備された懇親会場に早々と着き、暮れていく京の空を見ながら、今からなんだと自分に言い聞かせていた。高校の選択科目では人文地理を取り、当時独立した「ガーナ」を知ったことが鮮明に蘇った。あの頃からわざと歴史を避け、姉二人の物知りに抵抗していた幼い自己に気づく。

「看護する時、その人を知らないといけけないのよ。社会的背景をしっかりと」と、前期の実習反省会で指導者いわく。それを聞きながら、社会を知るには、歴史と経済と政治の三本柱をね、と考えを進めながらも、学生にどう伝えたらよいか自身なかった。「社会」はあいまいな概念となつて、学生の真の力になりたくいとも思つた。  
こんなことを思いつつ参加動機や自己紹介を心から楽しみ、晩夏の京を後にした日。

## 新刊書のご案内 発売中

高山たかみ盈ゆきの生涯

心の色は赤十字  
初代の看護婦監督

著者 吉川龍子（日本赤十字看護

大学・日本赤十字中央女子

短大図書館・本会会員）

A5版 二二〇ページ

（絵図・写真35点）

定価 一、五〇〇円

（会員特価 一、二〇〇円

送料二五〇円）

発行所 蒼生書房

電話（〇三）二五一―二三八九

東京都千代田区神田

駿河台三―二 山崎ビル

（振替 東京四―一八八六七―）

直接注文につき、電話かハガキ  
でお願い致します（書店では取扱  
てはしません）。

高山盈は明治期の日本赤十字看護婦の育成につくした女性です。日清戦争・北清事変の戦時看護に取締として従事し、看護婦の社会的評価を高めるのに尽力しました。本書後半の資料集には高山盈に関する記事のある明治期の雑誌を復刻して掲載しました。看護の歴史を研究されるかたがたのご購読をおすすめ致します。

○分科会は、短い時間なのに盛り上がり熱しました。次回にもつながりがつきました。とても実りのある会。懇親会でも、皆さん本音を言ってくれたあの盛り上がり感動いたしました。  
(五十嵐節)

○力強い学会のスタート、後輩にいい足跡がのこります。(武藤美知)

○第一回学会はラフなスタイル、ムードの中にヤル気、ヤリタイ気が満ちみちていることを感じました。(江崎フサ子)

○看護の歴史について、今後どのように学んでいくか、はやる気持ちをおさえて、今冷静にいろいろと考えております。(藤森美枝子)

○看護歴史学会は、「看護婦の歴史」だけを追及する学会になってはならない。あくまで看護のシステムの歴史の研究に比重をおくべきだ。本日の短い発表だけからでも、看護婦の歴史の研究会になりさがりそうなキグ(危惧)を感じる。(医史学専攻、医師「アンケート」より)

○日本では女性の地位が低いので、必然的に看護婦の地位も低くみられているとも思われます。歴史的にそれが証明される部分もされない部分も、いろいろ明らかにしていくことは大変おもしろいと思います。(看護学校専任教員「アンケート」より)

○看護史に関する本や資料の紹介、入手方法などをどんどん紹介してほしい。(岡山大学病院看護婦「アンケート」より)

○今回、勤務の都合上、分科会に出席できず、非常に残念に思っております。自分の研究テーマを見つけるためにこの学会へ参加したわけですが……フロレンス・ナイチンゲールについて興味もっています。(西川みどり「アンケート」より)

○看護史を角度をかえて考える機会を与えられて感謝します。また、史学が人事管理を行う上で、いかに必要かといったテーマでの講演を期待しています。(非会員、臨床看護婦「アンケート」より)



講演に聴き入る参加者の皆さん

○親しくできるお友達ができそうで、うれしく思っています。(看護学校専任教員「アンケート」より)

○入口の看板を見て、何か本を売っていないか、どんなことをして

いるのかと思いましたが、琉球列島の歴史に興味もっています。(非会員、麻酔医「アンケート」より)

設立総会まで（六十二年七月末日）の会計報告

表1  
設立総会において承認された標記のことについては、表1及び表2のとおりです。  
なお、表2の金額については、表1の昭和62年度予算額のうち一部の実績であります。が年度末にこれらを含んだ全体の決算をする予定です。（福本 恵）

収入の部		
会費	@3,000×97人	291,000-
幹事拠出金	@5,000×10人	50,000-
合計		341,000-
支出の部		
印刷費	会員証、会員カード	8,730-
通信費	切手、はがき	43,460-
事務用品	ゴム印、封筒他	1,866-
合計		54,056-
差引残額		286,944-

表2

収入の部	単位円	支出の部	単位円
会費	270,000	事務経費	50,000
幹事拠出金	50,000	幹事会経費	60,000
総会参加費	50,000	会員経費	20,000
合計	370,000	雑費	150,000
		機関誌	20,000
		簿記	50,000
		費用	20,000
		合計	370,000

注 幹事会拠出金には会費を含む  
備考 昭和63年度以降の会費納入については、郵便振替にてお願いします。

郵便振替口座番号 京都 1-52185  
名 称 日本看護歴史学会

昭和六十二年度予算

日本看護歴史学会会則

- 総則
- 第一条 本会は日本看護歴史学会と称する。
  - 第二条 本会は看護に関する歴史の新たな方向性と可能性を求め、広く考究することを目指す。
  - 第三条 年一回の総会及び関連事業（学術講演、特別講義、研究報告など）を開催する。
  - 第四条 本会は機関誌を発行し、会員に無料配布する。
  - 第五条 本会は会員の自主的な分科会活動を推進する。
  - 第六条 会員は看護の歴史に関する研究に関心のある者で、年会費三、〇〇〇円を納めた者とする。
  - 第七條 本会は会員より選出された幹事による幹事会を置く。
  - 第八條 選挙規約は別に定める。
  - 第九條 幹事は次の役割（代表、

総務、但し会計をふくむ。企画、編集、広報）を分担する。

- 第十条 幹事の任期は三年とし、重任を妨げない。
- 第十一条 会計監査二名を置き、総会の場で選出し任期を一年とする。

附則

- 第一項 本会則は一九八七年八月二十七日より施行する。
- 第二項 本会則の改廃は総会の議を経て行うものとする。

編集後記

高校時代の恩師の一人から教えられた言葉「順境にあって驕らず、逆境にあって挫けず」は、今も私の座右銘になっている。新しい会が船出した。いつまでも「無印良品」でいたいと願いつつ、やっとシロウト編集を終えて、一息ついているところである。（か）

日本看護歴史学会会報 第一号  
編集・発行 日本看護歴史学会  
（京都市立看護短期大学内）  
頒価 一部 三〇〇円  
（会員無料配布）